



**納品期限緩和に関する食品事業者意見交換会
実施報告書**

**令和2年3月
公益財団法人流通経済研究所**

1 開催概要

■ 目的

- 納品期限緩和等の先行企業を招き、納品期限緩和等の商慣習改善や食品ロス削減の小売業の先行事例と、小売業の食品ロス削減に関わる政府方針を参加者で共有・意見交換することにより、事業者の納品期限緩和に対する評価や取り組みを進める上での問題等を把握し、納品期限緩和等の商慣習の見直しおよび食品ロス削減推進についての意識啓発と取組方法の浸透を図った。
- 合わせて、会場アンケートにより、参加企業での納品期限緩和の実施状況を把握した。

■ 開催日時・申し込み者数

- 東京会場:令和2年1月16日(木) 14時～16時
 - ・ 会場:AP東京八重洲(13F ROOM A)
 - ・ 申し込み者数:食品小売業等30社 44名
- 大阪会場:令和2年1月30日(木) 14時～16時
 - ・ 会場:TKP新大阪駅前カンファレンスセンター(カンファレンスルーム4H)
 - ・ 申し込み者数:食品小売業等30社 41名

■ プログラム(両会場共通)

- 1 14:00～14:10 食品ロス削減に関わる政府方針・最近のトピックス / 農林水産省
- 2 14:10～14:30 食品ロス削減に関する各種調査結果報告 / (公財)流通経済研究所
- 3 14:30～15:05 先行事例報告 / (株)セブン & アイ・ホールディングス、(株)大阪屋シヨップ
- 4 15:05～16:00 意見交換・質疑応答
 - ・ 納品期限緩和等の商慣習の見直しについて、参加各社の食品ロス削減の取り組み状況

■ 参加官庁ご担当・事務局

- 農林水産省 食料産業局 バイオマス循環資源課 食品産業環境対策室
- 公益財団法人 流通経済研究所

2 会場の様子

会場全景



会場全景



会場全景



会場全景



質疑に答える(株)セブン&アイ・ホールディングス
グループ商品戦略部 調冊戦略部 荻原氏



事例報告する
(株)大阪屋ショッブ 総務部 部長 北村氏



3 開催結果まとめ

■ 開催結果概況

- 参加各社とも、食品ロス削減について周囲の期待の高まりを実感しており、経営上の重要テーマに食品ロス削減を位置づけていた。また各社の食品ロス削減問題への危機感や取組意欲を相互共有できたことは成果であった。
- 他社の考えや取り組みを知り、自社の方針や取組を比較・検討できる貴重な機会となった等の感想があった。
- 納品期限緩和も自社の問題と捉えている企業が多かった。
- 取り組む際には、自社が不利にならないよう、競合他社と足並みを揃えたいとの意見もあった。
- フードバンクの活用開始を検討中の企業も見られた。

■ 意見交換での主な発言

- 自社はまだ3分の1ルールだが、今日の話も踏まえ、2分の1に変えるつもりだ。(複数社コメント)
- 当社は11月からグロサリー全般で納品期限緩和をはじめた。
- 当社では食品アウトレット販売が消費者の支持を得ている。これから企業は「廃棄になりそうな商品を廃棄しブランド毀損を防ぐ」から「廃棄になりそうな商品を届けきることで企業ブランドを高める」との発想転換が必要だ。また、そうした社会意識醸成も重要だ。
- フランチャイズビジネスでの納品期限緩和拡大のネックは、フランチャイジーからメリット提供を求められがちなことだ。政策的取組と認知されるような行政のさらなる取組をお願いしたい。
- 日配品等は、店頭で同一商品の日付が2種類を超えると、新しいものから買われ、古い商品が残りがちだ。当社は2種類を超えないよう、賞味・消費期限が迫った商品について思い切った見切り販売を行っている。
- 当社も同じ課題があり、3種類の混在を許容し、日付別早期小幅値引を導入・実証中だ。